

令和元年度 第5回 社会教育委員会議 会議録

■日時

令和2年2月20日（木）午後1時30分から3時まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- | | | | |
|---------|--------|-----------------|--------|
| ・清水 眞理子 | ・田中 智美 | ・上村 卓三 | ・白畑 丈子 |
| ・高鍋 房美 | ・吉川 博文 | ・尾崎 麻由美 | ・谷 譲二 |
| ・堀内 保寛 | ・村上 栄 | (欠席：瓦 俊夫、網野 俊賢) | |

■出席事務局職員

- ・教育長：川村 智
- ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：石崎 勝巳
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：河西 聖子

■傍聴者

なし

■内容

【会議】

1 開会

2 あいさつ

吉川委員長

- 先日用があり朝9時半頃に奈良公園を通ったが、いつもなら観光客が大勢いるが、ほとんど人がいない。鹿もいなかった。新型コロナウイルスの影響があるだろうが、「正しく恐れろ」「冷静に」が難しい。社会教育の施設でイベントが行われるが、開催を考えなければいけないかもしれない。

- 今日は今年度最後の会議である。最後おふたりにも発表いただく。

川村教育長

- 今年度最後の委員会議となるが、1年間有益なご意見を賜ったこと、それぞれの団体での活躍いただいていることに感謝申し上げます。今日は研修報告や委員の報告があり、楽しみにしている。

吉川委員長

- 時間の関係上、先に研修を行い、その後に議事等を行う。

4. 研修（社会教育委員の活動等発表 第4回）

(1) 田中委員

- ボランティアとの関わりは精華町に平成2年春に移住して平成4年に旧役場で社協ボランティア講座を受け、登録した時から始まる。
- その後山田荘婦人会に入会、桜が丘支部を設立、支部長から会長も務め、食生活改善推進委員、地域の女性リーダーを育成する府女性の船に2回参加させていただいた。ボランティア連絡協議会として第1回目から子ども祭りの実行委員会として協力しつつ、男女共同参画推進委員の会長として10年間務めた。この委員会は最初からの構成でしたので、作業部等も作り、委員の方達とがんばった思い出がある。現在も審議委員として活動をしている。
- 社会教育委員の任命を頂き15年、当初は社会教育の立場は住民の方の意識度は低く、何時をしているのをとよく聞かれた。そんな中、とにかく地域、学校へと山田荘校区で4人いた社会教育委員としてがんばろうと様々な活動をし、山田荘校区のサポーター連絡協議会の会長として現在90名のサポーターと地域の子供達を見守り続けている。ボランティア連絡協議会の会長は15年以上しているが、これからはボランティアセンターの長として20グループの団体をまとめ、がんばろうと考えている。
- 高齢化しながらも継続的に活動して頂いている方々の為にも人と人とのつながりを大切にしたいと子育て支援も続け、そして次の世代にバトンタッチするまでがんばろうと思う。

(2) 尾崎委員

- 光台地区の民生児童委員の幹事を務めて7年目、子育て地域パートナー副会長を務めて11年目である。
- 精華町子育て地域パートナー連絡協議会は、平成20年6月に設立された。京都府において平成17年から3年間、子育て地域パートナー養成講座が実施され、本町からは23名が受講した。また、平成21年からは精華町主催の養成講座が開講された。当時町では子育て世代が増加し、子育て中の親やその子に

対する支援が求められていた。そこで、有志が集まり、親子が集える場づくりなど、支援をしてきた。

- また、同じ頃、精華町子育て支援センターがこまだ保育所内に設置され、地域における身近な相談相手として活動する子育て地域パートナーと、行政との協働によって子育て支援を推進することを目的に、協議会が設立された。現在、約35名が登録しており、各種の子育て支援活動を開催している。研修をしたり、子育て支援センターとともにつながり野外ひろばという野外活動を一緒にしたり、外部の依頼を受けて、イベントの託児のお手伝いをしたり、いろいろな活動させてもらっている。
- 活動のきっかけになったのが、先ほど田中委員がボランティアセンターでまとめてくださっている20団体の中にある育児支援サークル「あゆみちゃん」に関わったことである。精華町に引っ越してきて18年位になる。その頃は一人娘を育てるのに余り周りとうまくいかず、精華町で育児サークルに出会って助けもらった。それで、自分もお手伝いをできればと、いつの間にかボランティアをしていて、気づけば15年以上になる。
- そして、社会教育委員にも関わらせてもらって、勉強もさせてもらっている。
- 子育て地域パートナーとしては、地域ぐるみでの子育てが必要であり、子育て中の親の声をしっかり聞くことや、子供はみんな成長の仕方やそのスピードも違うこと、また相手の気持ちや痛みがわかる活動ということを意識しながら、親御さんたちとつながることを大切に、身近な支援者として活動を進めていきたいということを思って活動している。
- 社会教育委員として関わっている事業として、2中学で性教育の一環で、母子交流事業を行っており、その連携をお手伝いしている。田中委員が会長、高鍋委員が副会長である。

吉川委員長

- 本日欠席の瓦委員は後日発表内容を紙で提出いただく。
- この1年間、委員会の中で、活動を報告いただいた。委員が自分の問題や関わったことを報告し合う活動は、山城地域の中でもあまりない。委員の交流も大事である。分かっているようで分かっていないこともあるので、きっかけとして次に生かせる機会になったと思っている。

3 議事

(1) 管外研修の振り返りについて

ア 令和元年度全国社会教育研究大会兼近畿地区社会教育研究大会について
1月17日(金)、南山城村文化会館やまなみホールにて開催。

高鍋副委員長

- ラウンドテーブルでは、社会教育委員のおせっかいは、やはり社会の中で大

事だということを実感した。関西人のおせっかいは世界一であり、それをやっていきたい。

- 班のメンバーに杉本先生がおられ、「自分のことは自分でしない」とおっしゃっていた。無責任なことではなく、「自分のできることを人に対してする。その交わり方が人のつながりであって、これからの社会に役立つ」ということで非常に心に残っている。
- よく話に出るが、男性が地域の中で長続きしない。どこの市町でも同じような問題である。少子高齢化が進み、高齢者ばかりになり、世の中についていけない。消費税増税対策としてキャッシュバックがお得だとカードを申し込もうとしても、どこに聞けばいいのかわからない。電話しても音声案内で諦める。仕方なく子どもではなく周りの若い人に聞く。そこで地域のつながりが生きてくる。

村上委員

- 第1分科会に参加した。宇治市の公民館の現状として、高齢者が増え、部屋のとりあいとなったり、老朽化が進み今後について検討しているとの話があった。文化センターとの住み分けも必要とのことで、精華町にはない課題があった。
- 木津川市は、アスパアやましろと加茂文化センターの違いや使い分けの問題などについて話があった。各市町とも施設やお金について検討課題にあがっている。

尾崎委員

- 第2分科会に参加した。城陽市は、小学校10校、中学校5校あり、そのうち小学校4校で放課後子供教室をされている。最も古い古川子供教室では学習支援を行っていて、かつて参加した子が大人になってボランティアとして戻ってきているとのことがすばらしいと思った。してほしいこととできることは違う。それぞれが考えていけないといけないということを強調されていた。
- ラウンドテーブルでは、4名の方と話をし、木津川市はサンタモニカと繋がりがあり、がんばっているとの話があり、見習いたいと思った。

上村委員

- 第2分科会に参加した。相楽地区で放課後子供教室をされている木津川市の社会教育委員長のお話を聞いた。ともに遊んだり自由にされていて、非常に愉快地にやっておられる。子どもと遊ぶのが至福のときとのことだった。
- また、雑学大学をイオンで行っており、人の多いところで、地域の社会的なコミュニケーションを広げる場を作られていて、非常に興味深く聞かせていただいた。

清水委員

- 第3分科会に参加し、ラウンドテーブルで少人数で内容の濃い話ができただ。

発表では、宇治田原町の放課後子供教室の報告があった。当初は毎週開催されていた。2小学校で、30分の宿題と1時間の活動であり、活動はビーチバレー、グランドゴルフ、ブーメラン、正しい鉛筆の持ち方、読み聞かせ、自由遊びなどを行っている。

- ただし最近大きな問題が出てきた。子どもが増え、ボランティアが高齢で減ってきた。子どもの情報があまりないことや経費の悩みもあった。そこで今年から年8回と減らした。事前の打ち合わせをしっかりと行い、立ち止まって課題検討し、取り組めるようになったとのことだった。

吉川委員長

- 当日急遽会長が欠席し、副会長としてあいさつをすることになり焦った。
- 分科会ではいろいろな意見が出てきて良かった。コーディネータの育成、役を持つ人をどう確保するかなどを、少人数で話げできた。
- ただ、テーマが散漫になるので、その報告がまちまちになりがちである。今後は小テーマを作るなども必要である。

イ 令和元年度京都府スーパーサポートセンター府民講座について

1月25日（土）京都市呉竹文化センターにて開催。

清水委員

- 少し期待と違ったが、発達障害の子たちとどうかかわりを持ったらいいか。いろいろな人がいることはわかった。大なり小なり生きにくさを感じるというのがあった。講師の経歴から少年院でどう立ち直れるかという話かと思ったが違った。健全でも閉じこもってみたりどの子でも起こりうるとの話だった。

白畑委員

- 発達障害がテーマ。子どもが少し違ふと気づいたらすぐ保健所などに相談する。子どもの良いところを見つけてほめたり、根気強くつきあふ。学校の先生も地域の人も大変だが、その子の向き合い方で生きやすいようにできればいい。親御さんも大変であり、学校地域社会で見守っていかれたらと思う。

尾崎委員

- スライドと配布資料が一致しないところがあり、戸惑いがあった。
- 多様な発達障害の状態があるということを非常に詳しく教えていただき、周りの見守り、周りの目が大事だとわかった。

高鍋副委員長

- いろいろな問題を起こしてしまう子どもたちの中に、問題を起こしてしまった時に、わざとかそうでないか、それが治せるものか治せないものかということで、対応していかなければならない。
- 子どもにとってのよい環境とは、親の愛情であり、また家以外の居場所がある、受け入れてくれる場所があることも大切である。
- 幼児虐待をしてしまったお母さんの言葉で印象的だったのは、子どもが保護さ

れすごく心配してくれるが、私ばかり悪いと誰も親のことは構ってくれないという言葉だった。問題解決に力を注ぎたい。

吉川委員長

- 子どもの状況や自己肯定感の話は参考になったが、各種団体が子どもたちに関わるときにどうかかわるのかや発達障害の状況をもっと知りたかった。ただ単に落ち着きのない子なのかななどがわからない。また高機能自閉症というのがあり、学力や知識面では高いが、人間関係ができない子どももいる。対応の仕方がわかれば良かった。

田中委員

- 障害のある子どもへの関わりで言えば、精華町にはNPO法人「そら」の地主さんがいらっしゃるので、基本的なことの研修は地主さんをお願いしてもいい。また、本日NHK「ばりばり」、知的障害者が夫婦で子育てする番組がある予定で、本当に勉強にあるのでご覧になっていただきたい。

(2) 令和2年度社会教育関連事業について

- ・来年度の予定を確認した。

(3) その他

- ・成人式を1月13日に実施した。参加者数は419名。今年から2部交流会をメインホールで継続して実施した。
- ・京都府指定文化財として、神殿神社の本殿・八王子社が認定された。
- ・精華町子どもの読書環境整備5か年計画（第4次）案のパブリックコメントを実施した結果、意見はなかった。
- ・精華町教育大綱について、4年に1度の見直し中である。

◎閉会のあいさつ

高鍋副委員長

- 新型コロナウイルスで、どう動いたらいいかわからない状態だが、元気で頑張りたいと思う。ありがとうございました。

5 閉会

- ・第5回の今期最後の社会教育委員会を終了する。